

第23回

北海道 野生生物写真コンテスト

応募期間 2017年7月3日(月)～8月1日(火)まで(8月1日必着)



▲第22回写真コンテスト動物部門
1席「朝焼けを駆ける」(吉田雄二氏)



▲第22回写真コンテスト植物部門
1席「森の彩り」(吉村登美子氏)



▲2席「春を待つ」(簡恵津子氏)



▲2席「築の彩」(大塚史郎氏)



▲2席「孤高の戦い」(寺谷泰広氏)

北海道新聞野生生物基金は今年も北海道野生生物写真コンテストを開催します。北海道の自然の魅力を切り取って応募しませんか？

このコンテストの入賞・入選作品は、11月に札幌の富士フィルムフォトサロンで北海道野生生物写真コンテスト作品展示会を開き、展示いたします。

作品募集要項

■テーマと応募規定

動物(野生のほ乳類、鳥類、昆虫、は虫類、魚介類など)と植物(野生の草花、樹木、キノコなど)の2部門。北海道で撮影したカラーの単写真で、未発表のものに限ります。サイズは四つ切りか四つ切りワイド、デジタル写真はA4サイズも可。応募点数は動物部門・植物部門合わせて1人5点まで。

次の写真は応募できません。

- ・動物の繁殖(巣立ったひなも含む)に影響を及ぼす写真
- ・撮影のために餌付けで動物を呼び寄せた写真
- ・植物の保護地域に立ち入って撮影した写真
- ・意図的に自然物に手を加えて撮影した写真
- ・合成写真、外来種の作品など

規定に違反していると判明した場合、後日入賞を取り消すことがあります。

■応募方法

下記の応募票に必要事項を記入し、各作品の裏面に必ず天地を同じ方向にしてセロテープでしっかり張り付けてください。2枚以上(5枚まで)応募する場合は、応募票をコピーして各作品に貼付し、作品保護のため、1枚ずつ透明または半透明のビニール袋に入れてください。応募作品の取り扱いには十分注意しますが、郵送時の汚れ、破損等、万一の事故に対する責任は負いかねますので、ご了承ください。

■応募期間

2017年7月3日(月)から8月1日(火)まで(8月1日必着)。

■成績発表

8月末までに、北海道新聞紙上。

■作品送付先

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6
北海道新聞野生生物基金 宛

■返却

応募作品は返却しません。入賞した場合の原板(フィルム、データ)は発表後に撮影者に返却します。

■入賞

◎「動物部門」1席1点10万円、2席2点5万円、3席3点2万円、鯨島和子賞1点5万円(以上商品券)、富士フィルム賞1点(記念品)

◎「植物部門」1席1点10万円、2席1点5万円、3席1点2万円、鯨島和子賞1点5万円(以上商品券)、富士フィルム賞1点(記念品)

*北海道新聞野生生物基金は、2012年度から「動物部門」と「植物部門」に鯨島和子賞を創設しています。鯨島さんは長年当基金の監事として運営にご尽力され、2010年3月のご逝去の際には、ご自身が愛して止まなかった北海道の自然を守るために役立ててと多額の寄付をされました。当基金では、この遺志を受け継ぐためにこの賞を設けました。

■入選

◎動物部門優秀作 若干点(記念品)

◎植物部門優秀作 若干点(記念品)

■応募作品

入賞した場合は作品の原板(フィルム、デジタルカメラの場合はオリジナルデータをCD-Rなどにコピーしたものは、ご通知次第、ご送付願います。期日までに到着しない場合は失格となります。応募作品の使用権は主催者に属し、プリント展示、出版物、インターネットなどへ無償で使用させていただきます。入賞・入選作品による写真展を札幌で11月に開催します。また、当基金制作の2019年版カレンダーで使用する作品を応募作品の中から選びます。

■個人情報の取り扱い

応募票に記載していただく個人情報は、入賞通知・商品などの送付・原板返却など本コンテストを運営するために必要な範囲で使用させていただきます。また、入賞発表、作品展等に使用する作品には撮影者の氏名や都道府県、市町村名等を明示させていただく場合があります。

■問い合わせ先

公益財団法人北海道新聞野生生物基金
(平日9時30分-17時30分)
電話 011-210-5773

第23回北海道野生生物写真コンテスト応募票

部門/応募総点数	動物・植物(いずれかに○)/	点応募	職業/年齢/性別	/	歳/男・女
ふりがな 氏名			作品名(画題)		
			動植物名		
住所	〒		撮影場所		
			撮影年月	年	月
			写真の種類	銀塩写真・デジタル写真(いずれかに○)	
電話番号	*作品募集要項にある注意事項は厳守します。				